

1. ご挨拶

こんにちは！日野農業改良普及所です。

第7号となった「かわら版」ですが、今回のテーマは「**土づくり**」です。

また、人事異動でスタッフも変わりましたので、新任職員のご紹介を裏面でしています。

野菜の土づくりについて

野菜栽培に適した土は、排水性、保水性に優れ、土壌酸度が適正で肥料分に富む土壌です。水田から畑に変えて野菜を栽培する際は、額縁明きょや耕盤破碎を行い排水対策を十分に行いましょう。堆肥は肥料養分補給効果の他にも土壌の団粒構造を促進し、物理性を改善する効果もありますので、2～3t/10a程度入れるようにしましょう（施設栽培等で塩類集積している場合は減らします）。

日野郡管内で毎年トマトを多収生産されている生産者の方は11月にJAから購入した堆肥を3t/10a程度ハウスに投入されているそうです。堆肥は使用してすぐに効果が分かるものではないですが、年々トマトの生育が良くなっているのを実感されています。

また、ピーマンの高収量生産者も毎年3t/10a程度の堆肥をほ場に入れておられますし、白ねぎの優良生産者も毎年3t/10程度の堆肥を入れて土づくりに取り組んでおられます。（担当：小谷）



ハウス内に投入された堆肥の様子

イネの土づくりについて

不足する養分を補給する土壌改良剤の散布も大切ですが、それだけでは根本的な土づくりとはなりません。肥もちを良くし養分をゆっくりと供給する「化学性の改善」、通気性や排水性・保水力を改善し根を伸びやすくする「物理性の改善」には堆肥などの有機物の施用が必要です。そこで、今回は実際の堆肥施用実践者である水田道明（下写真）さんにお話を伺ってきました。水田さんは、江府町武庫で日野特別栽培米を生産しておられ、特裁米の他、一般米でも堆肥散布をしておられます。堆肥は江府町の堆肥センターのものを使用されています。（担当：長戸）



水田道明さん（江府町武庫）

【コメント】

昔から良いお米を作りたいという想いで、20年くらい堆肥を散布しています。うちのお米は外観が良く全て1等米で、収量は安定しています。特に効果が出たと感じている訳ではないですが、これが普通になってしまっています。最近の堆肥は、品質が良く変な草が生えるようなことはなく、補助事業の活用で、堆肥代が負担に感じることもありません。私はこれからも堆肥を散布し続けますので、普及所の指導を期待しています。（水田さん大変ありがとうございました。）

3. 直売所販売のポイント

管内では、平成27年4月に江府町道の駅「奥大山」がオープンしました。そして、平成28年4月には、日南町において道の駅「日野川の郷にちなん」がオープンします。

先日、日南町道の駅出荷者協議会の研修会において、県中部地域の直売所へのお荷で所得を上げておられる中原一男さん（北栄町大谷）にお越し頂き、直売で販売する上での極意を教えてくださいました。



ポイント1 スーパーチラシで品目を選定。品目選定は消費者目線で！

同じ播種日でも、異なる品種を播種し、出荷の幅を長くするなど工夫。毎日6～7品種出荷できる体制にしているそうです。品種選定はスーパーのチラシを1年分インプットしておき、消費者がこの時期に何を欲しかるかを考えながら、品目を選定している。

品種選定も、自分一人で地域に合った品種を探るのは2～3年はかかってしまうので、直売仲間と協力して品種の選定をしている。

ポイント2 作付したものは、すべてお金に換えるという根性を持って！

曲がったキュウリは、漬け物加工。股割れ大根は切り干し大根に加工して販売。サツマイモについては、青果より干し芋にすることで、単価もあがるとのこと。青果と加工の組み合わせが所得アップの秘訣。

ポイント3 荷姿は美しく！パッケージ、ラベルの工夫でライバルに差をつける！

ハウレン草だけでも、5種類の大きさの袋を準備して、葉が袋から出ないようにしている。葉が袋から出ていると色々な人の手に触れるのでお客様が敬遠する。また、一括表示の色を変え、お客様がすぐに中原農園（生産者）が特定できる工夫をしている。（担当：木下）



普及所長
高口

農家の皆さんに知ってほしいニュース、情報を今年もかわら版でお届けします。

普及所は皆さんの新しい取り組みを共に考え、応援します。



新規就農担当 渡辺



畜産担当 米村



水田作物担当 長戸



花卉担当 福本（広域）



野菜担当 小谷



6次産業化担当 木下



水田作物担当 金川



果樹担当 杉嶋（広域）